

こやす・おおつぼいせき

子易・大坪遺跡

(伊勢原市No.123跡)

調査期間 200902011～20090331

所在地 伊勢原市子易字大坪

時代

縄文
古代



作成日:20090331

概要

本遺跡の調査は神奈川県が行う県道611号(大山板戸)道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として平成21年2月から実施しています。

遺跡は伊勢原市の中央部、小田急小田原線の伊勢原駅より西北西へ約3.7kmの地点、県道611号(大山板戸)線(大山街道)沿いの子易明神比々多神社から鈴川を挟んだ南側の河岸段丘上に位置しています(写真1)。現地表面は標高103～107mを測り、現在の鈴川との比高差は7m程あります。

今年度分の調査対象面積は714㎡で、調査対象範囲の東端部分となります。

これまでの調査で発見した遺構・遺物としては古代(奈良～平安時代)の円形土坑やピット、縄文時代の後期では、竪穴住居址や集石遺構、埋甕、配石遺構、炉址、ピットなど縄文時代のムラが見つかりました。中でも竪穴住居址のうち床全体に石が敷き詰めて作られた敷石住居址は、非常に良い状態で遺(のこ)されていて、どのように石が床に敷き詰められたのか、どんなところに柱が建てられていたかなどの様子がよくわかる貴重な資料となりました。

またローム上面では、獣を狩る時に作られた陥穴(おとしあな)と考えられる土坑が多く見つかりました。縄文時代後



▲遺跡遠景(南東から)



▲円形土坑(古代)

期より古い時期には子易・大坪遺跡は狩場だったことがわかりました。

平成 20 年度の調査は平成 21 年 3 月 31 日で一端終了しました。今後、今回の調査範囲の西側へ向かって調査を進めてゆきます。平成 21 年度の調査は夏くらいから再開する予定です。



▲J1号敷石住居址(縄文)